

オープン市場短信 (2005 年 10 月)

2005.10.07

9月のCP市場動向

9月のCPの新規発行は、期末月特有の動きである企業の有利子負債圧縮による発行減から、約3兆9千億円に止まり期落ち額(約5兆5千億円)を大幅に下回った(除く金融機関発行CP・ABCP)。もっとも、みずほFGが大量の新規発行(末残1兆8,300億円)を行なったことやABCPが若干増加したため、9月末現在の電子CP発行残高は20兆2,556.31億円(前月比約1,176億円増)となり、月末ベースで8月に引き続き20兆円台をキープした。9月の新規発行企業数は7社、9月末時点の発行登録企業数は370社で、この内既発行企業は314社となった。

9月末の業種別発行残高内訳では、ABCPが約6兆円でトップ。続いて、ノンバンク・リース会社が約5.7兆円、金融機関(持ち株会社を含む)が約4.85兆円となっている。電子CP化によって、証券保管振替機構を通じて個別企業のCP発行残高が把握可能となった。これまでは決算発表等を待たないと残高が把握出来なかったり、非上場企業やABCPについてはその発行実績が把握しづらかった。しかし、現在は保振機構のHPにアクセスすることで、個別企業の発行状況および業種別動向が容易に把握できるようになっている。

発行レートは、期内最終のCPオペが終わった後21~27日(スポット月末日前日)までは投資家の動きが鈍く一時的に強含んだが、全般的には落ち着いて推移し、特に月末スタート約定日に当たる28日以降は期落ちに比べ新規発行が激減したこともあって、運用に余裕の生じた投資家・ディーラーが購入に動いた結果、レートは弱含み地合となった。

銘柄別の発行レート 期越物

【最上位格付け銘柄】0.003~0.01%台割れ。

【オペ適格銘柄(a-1)】0.01~0.03%近辺。

【ノンバンク・リース会社】a-1+銘柄 0.001%台~0.01%近辺。

a-1銘柄(オペ適格)0.015%近辺~0.07%台。

【a-2格銘柄】0.02%台前半~0.20%近辺。

CPオペ

ABCP買切りオペは今月も2回オファー(7日・21日)された。オファー金額はいずれも1,000億円。応札額は7日207億円、21日555億円と、5月26日オファー分から9回連続で札割れとなった。買切りオペは、来年3月まで月に2回程度のオファーが続くと思われるが、今後も札割れ解消の見通しは立ちにくいように思われる。

CP現先オペは、9月は月中5回の期日ロール(9/30のオペスタートは10/4)が行われた。ディーラーのオペ玉保有も多く、期末越えの資金確保を確実に行ないたいという意図もあって、足切レート・平均落札レートともに回を追うに連れ上昇した。しかし、ディーラーの応札態度は落ち着いており、極端なレートの跳ね上がりは見られなかった。

日銀発表のオペ残高のうち、手形 CP は 500 億円のみとなっている。CP オペの対象が短期社債（電子 CP）のみになる日も近いだろう。

9 月末の CP オペ残高

ABCP 買切りオペ 617 億円

CP 現先オペ 2 兆 6,412 億円

（内資産担保 CP 0 億円/短期社債・短期外債 20,000 億円/資産担保短期債券 5,912 億円）

ABCP

8 月末の ABCP の発行残高は、約 6 兆円と前月（約 5 兆 4,000 億円）より増加したが、前年同月比では 4,600 億円程度減少している。引き続き、ABCP の発行額回復は厳しい状態が続いている。

現先市場

月中現先レートは、0.004～0.03%（期越え 0/N の出会い）のレンジでの出会い。

10 月の CP 市場動向

10 月中の CP 償還は、約 2 兆 8,500 億円で前年同月（約 2.8 兆円）とほぼ同額となっている（除く金融機関発行 CP・ABCP）。新規発行は、中間期末対策で継続を見送った発行体の復活発行も見込まれ、期落ちよりも増加するだろう。

電子 CP 化による利便性から、発行体によってはショートターム物を発行の中心とするなど、このところ発行期間の短期化傾向がみられているが、10 月は年末越えの資金調達が増加してくることもあり、年内物と年越し物とでバランスのとれた発行が行なわれるのではないかと。

量的緩和政策の解除時期が意識されてきてはいるが、3M 以内物のレートには影響は見られず、発行レートは引き続き低位安定で推移すると思われる。最上位格銘柄で 0.001～0.006% 程度、a-1 格で 0.007～0.02% 割れの水準と予想する

CP オペ

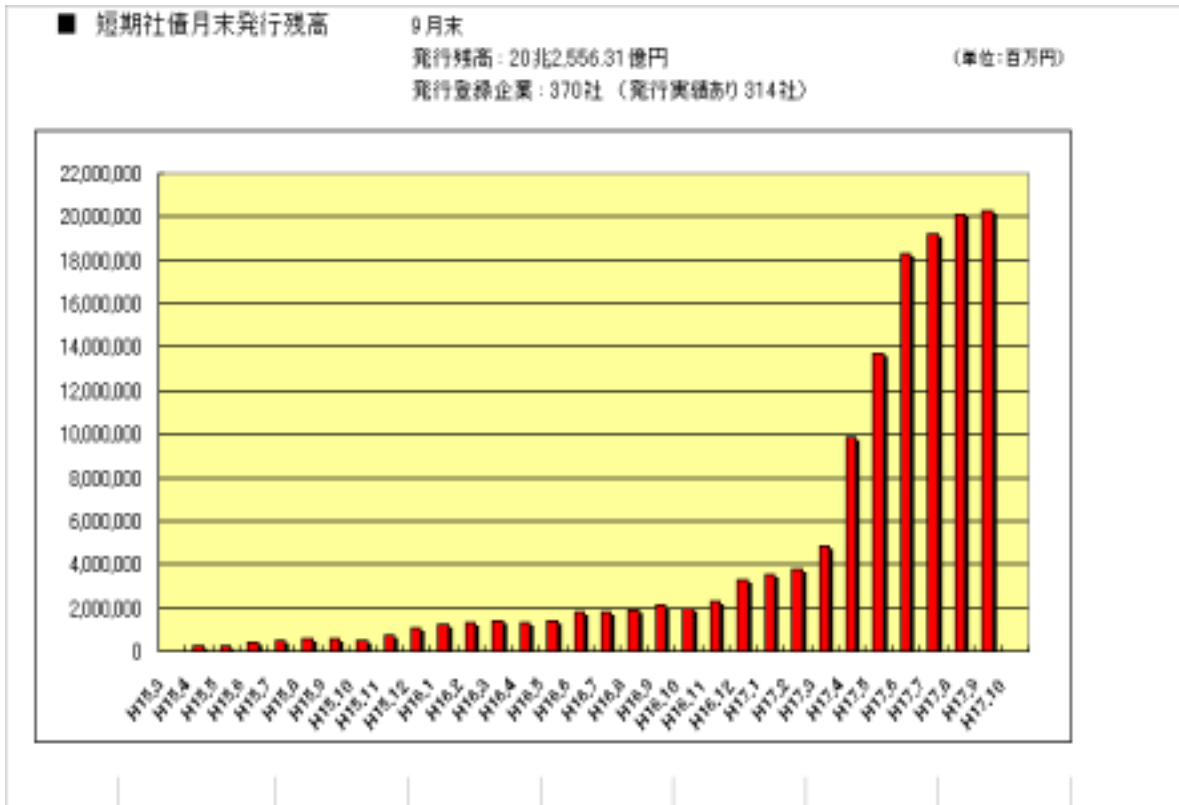
ABCP 買切りオペは、先月同様、2 回のオファーで札割れが続くことになろう。現先オペについては、4 回の期日のロールが行われる見込み。月初に実施されたオペ（10/5 オアファー分）ではディーラーの応札ニーズが強く、まとまった額の応札となった。しかし、セカンダリー市場での投資家の引き合いも多く、転売も進むことで 2 回目以降は落ち着くと思われる。

現先市場

月中現先レートは、T/N・S/N とともに 0.003～0.007%、ターム物で 0.005～0.008% 近辺での出会いを予想。

（松倉）

短期社債月末残高 (H15年3月~H17年9月)



9月末 業種別残高 (上位5社)

	業種	正式社名	残高(百万円)
1	ABCP	フォレスト・コーポレーション	1,087,587
2	ABCP	エイベックス・ファンディング・コーポレーション	813,000
3	ABCP	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	483,100
4	ABCP	エレニウム・アセット・ファンディング・コーポレーション	444,200
5	ABCP	アストロ・キャピタル・コーポレーション・トゥー	350,753
1	その他金融	オリックス株式会社	530,500
2	その他金融	ダイヤモンドリース株式会社	485,800
3	その他金融	住簡リース株式会社	387,700
4	その他金融	三井住友銀行リース株式会社	301,500
5	その他金融	東京リース株式会社	288,100
1	銀行	株式会社みずほフィナンシャルグループ	1,830,000
2	銀行	株式会社みずほフィナンシャルストラテジー	472,000
3	銀行	株式会社みずほコーポレート銀行	423,400
4	銀行	株式会社東京三菱銀行	337,900
5	銀行	株式会社UFJ銀行	149,000
1	証券	野村證券株式会社	504,000
2	証券	みずほ証券株式会社	325,500
3	証券	三菱証券株式会社	219,800
4	証券	大和証券SMBIC株式会社	116,000
5	証券	日興シティ証券	43,100
	一般企業		
1	輸送用機器	日産自動車株式会社	316,000
2	石油・石炭	新日本石油株式会社	213,000
3	パルプ・紙	王子製紙株式会社	140,000
4	電気機器	シャープ株式会社	127,000
5	情報・通信	日本電信電話株式会社	110,000